



俯瞰図 2つのウィングの中央に「知の空間」である図書館が位置する校舎の構成は、大きく翼を広げて雛鳥を抱き育てる親鳥をイメージしている

「この工夫で子供たちの言語や感覚が」

まだ建設途上だが、京都府木津川市（関西文化学術研究都市内）に完成する校舎は地上4階建て。ここに初等部の1年生から6年生と、国際部の小学校1年生から高校3年生までが同居する。1階はオフィス部分、2階が英語と日本語を使用するBフロア、3階は初等部が使用するJフロア（日本語のみ使用）、4階をEフロアとして国際部も含めた英語だけの空間となる。これを認知しやすくするためフロアのカラーをそれぞれ変える予定だ。



同志社国際学院設置準備室 大迫弘和室長
おおさひろかず。1953年東京生まれ。東京大学文学部卒業。1987～1991年までイギリス在住。1991年に千里国際学園中等部・高等部の開校を機に帰国。1999年から同校校長。2011年から同志社国際学院校長（予定）。著書に『この国の未来を創る学校』（創友社）など。

DOSHISHA
I
INTERNATIONAL
ACADEMY

お問い合わせ先：同志社国際学院設置準備室 ☎ 075-251-4677 www.dia.doshisha.ac.jp

世界標準の教育カリキュラムと環境で、ボーダーレスに活躍できる人材を育成



同志社国際学院

グローバル化はもちろん、人口減少に直面する日本は海外に市場を求めなければ立ち行かなくなってきた。来春開校予定の同志社国際学院は、そんな時代に必要な世界標準の教育と環境を備えており、特に初等部は6年間を通して授業の半分以上が英語で実施される。

教育課程特例校として、授業の約55%を英語で実施

少子高齢化で内需の拡大にも限界がある日本にとって、海外展開や国際的な企業連携は急務といっている。国内でも、外資に買収された企業は珍しくなく、「観光立国」も新たなスローガンとなった。ところが、国際共通語で



スクール）で構成。特に初等部は文部科学省が認めた教育課程特例校であり、6年間を通して授業の約55%を英語で、約45%を日本語で行う。さらに音楽、図工、体育は国際部と合同の「ジョイント・ラーニング」で実施される。

早期から英語と日本語のバイリンガルで教育するだけでなく、異文化を持

つ国際部の子供たちとの共存も得難い特徴といえるだろう。

DIA開設のために、同志社大学はインターナショナルスクール教育、国際バカロレア教育、帰国生徒教育、そして日英バイリンガル教育において日本で指導的立場にある大迫弘和氏（DIA設置準備室室長）を招聘した。同志社大学のDIA開校にかける意気込



図書館 12年制の国際部（インターナショナルスクール）も併設するため、バイリンガル・ライブラリーとなっている

混乱することがなくなります。その一方で、身体を動かして学ぶ体育、図工、音楽は国際部の同年齢の子供たちとともに学びますから、様々な異文化や個性と触れ合うことになり、心身ともに大きく成長させていくと思えます」とDIAの平田一恵準備室室員（初等部教員予定）は語る。

こうした環境だけに、DIAでは私立小学校で定番の制服はない。「様々な個性を認め合うことも教育理念の一つです。ただし、唯一ランドセルだけはDIAの一員として一体感を持つてもらうため、初等部・国際部で共通のものを使います。また、このランドセルは6年間使用後、教育内容の一部として就学問題を抱える世界の現状について学んだ上で、これを必要とする国々へ寄贈します」（平田室員）

初等部卒業後の進路が気になるが、学校法人同志社には4つの中学・高校があり、そのいずれにも推薦制度がある。日英バイリンガル教育という教育方法から同志社国際中学校への進学が多くなる想定されている。

「日本という枠を超えて、世界に貢献する人材に育って欲しい。そのための日英バイリンガル教育なのだというDIAの理念をしっかりとご理解いただきたいですね」（大迫室長）

バカロレア）に準拠していることだ。これはスイスの国際バカロレア機構が定めたものであり、いわば世界標準の教育カリキュラムである。

その特徴は、世界の共存を前提として、異文化も尊重できる国際教養人の育成にある。このため、画一的な教育とは根本的に異なり、子供の創造性や潜在能力を最大限に開花させる個別対応のプログラムを志向している。さらに、社会の中枢を担うリーダーに必要な資質として、自力で考え、論理的な思考ができる教養と品格の育成も大きな目標としている。

このカリキュラムが目指す人間像は、「挑戦する人」「コミュニケーションのできる人」「正義感のある人」「考える人」

日本という枠を超えて、世界に貢献できる人材に

大迫室長は「同志社の理念であるキリスト教主義、自由主義、国際主義をさらに強固なものにしていく学校です。すでに幼稚園から大学までの一貫教育が完成していることから、ここにもう一つ本格的な国際教育を加えて、同志社全体をグローバル化していくエネルギー源にするという強い思いから誕生しました」と語る。

来年度から実施される新学習指導要領でも小学校5・6年で英語が必修化されるが、DIAのレベルはそれとは比較にならない。中には子供の頃から2カ国語教育では混乱しないかと心配になる保護者の方もいるだろう。「間違った英語教育ならそうなりません。しかし英語だけでなく正確な日本語も学ぶことで、双方の能力を高められるのです。すでに専門家の注目を集めており、私自身もこの学校を児童英語教育の聖地にしていくつもりです」（大迫室長）

カウンセリングと保健室の機能を併せ持つ「スチューデントケアセンター」も設置。身体的なケアはもちろん、子供たちの心もしっかりと面倒をみるサポート体制を整えていくという。

日英のバイリンガル教育から紹介を始めたが、DIAの本質はIB（国際

子供たちの勉学と心を支えるケアセンターも整備

カウンセリングと保健室の機能を併せ持つ「スチューデントケアセンター」

も設置。身体的なケアはもちろん、子供たちの心もしっかりと面倒をみるサポート体制を整えていくという。

日英のバイリンガル教育から紹介を始めたが、DIAの本質はIB（国際

こうした環境だけに、DIAでは私立小学校で定番の制服はない。

「様々な個性を認め合うことも教育理念の一つです。ただし、唯一ランドセルだけはDIAの一員として一体感を持つてもらうため、初等部・国際部で共通のものを使います。また、このランドセルは6年間使用後、教育内容の一部として就学問題を抱える世界の現状について学んだ上で、これを必要とする国々へ寄贈します」（平田室員）

初等部卒業後の進路が気になるが、学校法人同志社には4つの中学・高校があり、そのいずれにも推薦制度がある。日英バイリンガル教育という教育方法から同志社国際中学校への進学が多くなる想定されている。

「日本という枠を超えて、世界に貢献する人材に育って欲しい。そのための日英バイリンガル教育なのだというDIAの理念をしっかりとご理解いただきたいですね」（大迫室長）